

かさかけ 公民館だより

編集
笠懸公民館報編集協力員会
みどり市笠懸公民館
発行
みどり市笠懸公民館

〒379-2311
みどり市笠懸町阿左美1581-1
電話：0277-76-2211
FAX：0277-76-2836
Eメール：kouminkan
@city.midori.gunma.jp

技術向上!! 成長あるのみ!

新聞づくりを学ぶ

2月21日(金)、笠懸公民館で「新聞づくり講習会」が開催され、9人が参加しました。

この講習会は、笠懸公民館報編集協力員の研修として開催され編集協力員の技術向上を目的としています。また、会報や広報誌を発行している団体や地域のみなさんにも参加してもらい、情報を届けるための新聞づくりの知識や技術を学ぶ機会



▲ 熱のこもった講義をする講師の高桑さん

会として開催しました。

講師には、上毛新聞社編集局長高桑和彦さんを招き指導していただきました。

▼記事の書き方

・新聞記事の場合、逆三角形と呼ばれる構成が一般的です。原稿は、最初に重要な要素(結論)を盛り込み、後の文章(説明)を切っても大丈夫なような書き方をします。

・スペースが決まっているコラムなどは別です。

・専門用語をそのまま使うのではなく、読者に分かりやすいようにします。

▼見出しのポイント

・「主見出し」「脇見出し」等あり、内容を凝縮して伝えたいことを表現します。また、文字数を少なくします。

▼レイアウト

・新聞は記事を「流す」形式が多く使われてきまし

た。上毛新聞では、2016年から地域のページで「ブロック組」を採用。仕切られた中に、一つの記事を入れるようにしました。(記事をスクラップする時この書き方がスクラップしやすい)

▼写真の撮り方

・被写体に合わせて撮ります。例えば、展示会の場合は、展示物とそれを見学する人の表情を一枚の写真の中に入れます。講演会では、講演者の表情と講演のタイトルを入れるなど工夫をします。

参加者は、真剣な表情で講師の話聞き、メモをとっていました。

笠懸公民館報編集協力員会では、公民館や地域の情報を発信するため、毎月「かさかけ公民館だより」を発行しています。今回の研修で学んだことを紙面づくりに反映させていきたいと考えています。

また、新聞づくりに興味のある方は、私たちと一緒にやってみませんか。公民館へご連絡ください。

大切なお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、笠懸公民館では当面の間、次のように対応させていただきます。最新の情報は、みどり市ホームページをご確認ください。ご理解とご協力をお願いいたします。

- ・公民館休館
- ・「かさかけ公民館だより」の休刊



▲ 上毛新聞を参考に

親子そろって、大きな成果

お母さんと一緒教室

文集づくり

お母さんと一緒教室も閉講式を残すのみとなり、公民館交流ホールで文集づくりが3月6日(金)に行われました。

お母さんたちは、1年間撮りためた写真を行事ごとに担当を決め、レイアウト



▲ もくもくと作業に取り組むお母さんたち

ちなところ、広いホールで思いつき走り回ったりゲーム遊びで身体を動かしていました。根岸先生は、「ゆづり合いやお話が上手になり成長したね」と喜んでいました。「来年度も家庭で育児している親子にぜひ参加してほしい」と話していました。

を考えながら写真を貼り付け、作業をこなしていきました。文集には、子どもとお母さんたちの楽しそうな笑顔がたくさん載っていました。

子どもたちは、根岸先生と山口先生に見守られながら、同じホールの中で安心して遊んでいました。

新型コロナウイルスの影響で家にこもりがち

閉講式・お別れ会

新型コロナウイルス感染予防のため、すべて中止になった公民館事業。「お母さんと一緒教室」も主催が公民館でしたが、最後のお別れ会兼閉講式は、お母さんたちの熱意の中、自主教室として開催されました。



▲ お世話になった根岸先生へ感謝の花束を贈呈

3月13日(木)、笠懸公民館和室では、閉講式の前にお母さんたちが、できあがった1年間の総集編の文集や写真を懐かしそうに、そして、嬉しそうに見ていました。たった1年間で、子どもたちの成長は素晴らしいですね。

閉講式では、「七夕まつり」から始まった年間18回の教室の活動を振り返り、お母さんたち一人ひとりから感想を話してもらいました。

- ・たくさん色々な事が体験できて本当に良かった。
- ・皆さんと楽しい交流ができ、お友達になれました。
- ・人見知りの子でしたがさまざまな体験の中で自分から行動できるようになった。

最後はみんな笑顔で♪



・お母さんたちの協力があったって18回出席することができました。感謝しています。

などなど・・・

最後にお世話になった講師の根岸先生に、お母さんたちからサプライズとして、大きな花束が贈られました。春には幼稚園児や保育園児になりますね。元気に頑張ってくださいね。

ボッチャを体験

ボッチャ講習会



▲ 指導者の説明を聞く参加者

2020年東京パラリンピックのホストタウンに手を挙げたみどり市。それに先駆け「ボッチャ講習会」が2月13日(木)と14日(金)の2回、笠懸公民館交流ホールで開催されました。

講師は、群馬県ボッチャ協会理事長の岩下浩明さんと審判部長の小川克行さんの2人でした。

参加者は、渡良瀬特別支援学校教諭、スポーツ関係団体、福祉関係団体などで、13日は市長、教育長を含む

65人、14日は27人と関心の高さが伺えました。

須藤市長はあいさつで「56年振りの東京でのオリンピック。ホストタウンになって、それをレガシーとして残したい。世界大会対応競技マット2枚とボッチャセット10個を購入しました」と話しました。

このセットは、市民体育館、各公民館、多世代交流館、社会教育課に置いてあり、市民のみなさんにいつでも貸し出しするそうです。

「ボッチャ」とは、パラリンピックの正式種目で重度の脳性麻痺者、四肢重度障がい者のためにヨーロッパで考案されたもので、白いジャックボール(目標球)に赤、青のボールをそれぞれがいかにか近づけられるかを競うスポーツです。上から投げて下から投げてもあるいは蹴ってもよく、投

げることができない場合には勾配具(ランプ)を使います。緻密な戦略、正確な技術、集中力が競技の見所です。

対戦方法は、1チーム3人で行います。

実際にやってみると、力加減が難しく、なかなか思うところにボールが行きませんでした。

笠懸公民館の交流ホールには、ボッチャコートが2面あります。新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は利用できませんが、状況が落ち着いたら、皆さんでチャレンジしてみてもいかがでしょうか。



▲ 白い目標球に近づけるようにねらいます

お母さんと一緒に教室 学級生募集!!!

笠懸公民館では、子育てに励むパパママを応援しています。子どもと2人きりで過ごすことの多い方、子育てに関して不安や悩みを抱える方、公民館で楽しく活動しながら地域で仲間づくりをしませんか。

- ◇実施期間 令和2年7月～翌年3月 (月2回・全18回)
- ◇時間 午前10時～正午
- ◇対象者 市内に在住または在勤の親と、令和2年4月1日現在で2歳～3歳(平成28年4月2日～平成30年4月1日生)の子どもで、継続的に参加できる方
- ◇内容 同年代の子どもをもつ親同士の情報交換や仲間づくり、専任講師の支援による集団遊びの体験など。
- ◇申込方法 笠懸公民館窓口または電話、メールのいずれかにて申し込み
- ◇申込期間 令和2年4月16日(木)～5月24日(日)まで
- ◇その他 具体的な内容は開講前に講師と学級生の話合いで決めます。参加費は無料ですが、活動内容によって食材費等実費負担があります。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、期間や内容が変更になる可能性があります。



曜日	隔週 金曜日
会場	笠懸公民館 ほか
定員	親子20組(先着順)
申込方法	窓口または電話、電子メールのいずれか ～電子メールの場合～ 件名に「お母さんと一緒に教室参加希望」と明記してください。 ①住所 ②氏名・ふりがな(親・子ども) ③電話番号 ④子どもの生年月日 ⑤子どもの性別 ※5月29日(金)までに返信がない場合はお問い合わせください。
	笠懸公民館メールアドレス kouminkan@city.midori.gunma.jp
申込み問合せ先	笠懸公民館 みどり市笠懸町阿左美1581-1 TEL 0277-76-2211





▲ 指導を受けながら実戦!!

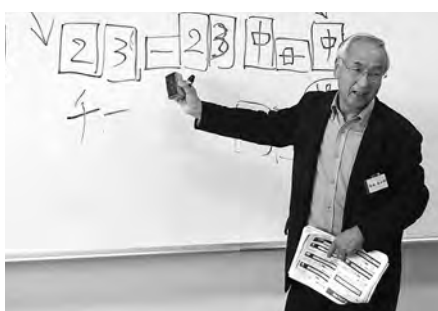
参加者は、雀卓を囲み、パイのそろえ方やルールを真剣に学びながら実戦。麻雀用語に戸惑いながらも、笑い声が絶えず楽しんでいました。参加者に感想を聞いてみると「認知症予防で申し込みまし

笠懸公民館主催「初心者健康麻雀教室」が2月13日(木)、27日(木)の2回開催され大好評でした。本来であれば4回開催の予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、3月26日までの市主催の事業は中止または延期する市の方針により、残り2回を中止

楽しみながら健康に!!
後半はあえなく中止に:
初心者健康麻雀教室

とししました。認知症予防、脳トレ、仲間づくりのために「かけない! 飲まない! 吸わない!」のもと、健康に麻雀を楽しむをモットーに企画されました。教室の定員は16人でしたが、キャンセル待ちが出るほどの大人気でした。

講師は「二区麻雀教室」で指導している、須田章七郎さんと清水悦夫さんの2人です。



▲ わかりやすく説明する講師

た「難しいけどおもしろい」「頭の中が整理できる心配」などと話していました。2回で終わってしまうのでは、残念なのでサークル立ち上げの提案が持ち上がっていました。

みどり市
マスコット
キャラクター



みどモス

みどり市
文化フェスティバル

笠懸地域文化祭 参加者大募集

笠懸地域文化祭は、笠懸公民館をはじめ、主に笠懸地域で活躍している、個人やグループ・サークルなどの活動成果を発表し、お互いの文化や活動にふれることで、交流を深め、新しい学習活動や、地域文化の発展に寄与することを目的としています。



問い合わせ
主催

笠懸公民館
TEL : 0277-76-2211
FAX : 0277-76-2836

日程 令和2年10月17日(土)~18日(日)

会場 展示部門: 笠懸公民館
ステージ部門: 笠懸野文化ホール
イベント部門: 笠懸公民館及び周辺屋外

参加資格 みどり市笠懸町に在住・在勤・在学する個人及び主な活動拠点が笠懸地域にあるグループ・サークル・機関・団体で、実行委員会に実行委員を選出し、文化祭の運営に協力できること。
※全3回の実行委員会に出席できること。(要望)

申込方法 笠懸公民館、笠懸野文化ホール、笠懸図書館、市民体育館、岩宿博物館、みどり市役所笠懸庁舎に設置してある申込用紙に必要事項をご記入の上、

5月31日(日)までに笠懸公民館へ提出してください。

※複数部門に参加の場合は、部門ごとに実行委員を選出し、それぞれ申し込みをしてください。

思い出がいっぱい

公民館事業写真展

令和元年度
公民館事業写
真展が3月24
日(火)から4月
10日(金)まで、
ふるさとギャ
ラリーで開催
されました。

公民館職員

が1年間撮り
続けた写真を模造紙に貼り、
行事ごとに手書きで、一つ
一つのこもったコメント
が添えられていました。



▲ 思い出しながら展示を見る親子



▲ 新型コロナの影響で閑散とした会場

新型コロナウイルスの対
応で3月度の行事は全て中
止になり、とても残念でし
た。

外出自粛もあり、
来館者は少なかった
ようです。
新年度も自粛から
始まりましたが、早
く通常通りの活動が
できるようになるこ
良いですね。



笠懸町九区 公民館大掃除

3月14日(土)九区公民館で
区の役員、各種団体が参加
して区の公民館の大掃除が
行われました。

当日は雨で駐車場、花壇
の清掃はできませんでした。
また、コロナウイルス感

投稿

正しく怖がるとは 〜新型コロナに思う〜

傍目三目

令和2年3月26日現在、
新型コロナウイルスが、猛
威を振るっている。昨年暮
れに中国『武漢』で発生し
たこのウイルスは、
▼感染しても症状がでない
場合があるし、発症して
も多くの場合、発熱や咳
などの軽症の人が多い。
▼高齢者や、基礎的疾患を
持つ人を中心に肺炎等で
重症化しやすい。
▼国や地域により、致死率
が異なっている。中国武

染予防のため、皆さんそれ
ぞれに用意された掃除用具
を使い、短い時間で終わら
せようと一生懸命でした。

この掃除は、夏祭りの後
の10月と年度末の3月と2
回行われます。

1年間の感謝と次年度を
新しく気持ち良く迎えても
らうため、役員や団体が協
力して行っています。

漢：45%、日本：35% (令
和2年3月26日現在)

以上はこの感染症の特徴を、
エビデンスに基づいてその
一部を記述したものだ。
これらを見ると「そう心配
したものでもない」と、つ
い考えてしまう。しかし、

▼感染力は、インフルエン
ザに勝る。
▼無症状者がウイルスを拡
散するステルス性を持つ。
▼エアロゾルによる空気感
染もある。

▼感染者の20%位が重症化
する。基礎的疾患を持つ
人、高齢者の致死率はや
けに高く、武漢では14.8%
(80歳代)にのぼった。

▼ワクチンもないし、治療

薬も見つかっていない。
と続くと、76歳の私は恐怖
でチヂミ上がってしまう。
マスクメディアや、インタ

ーネットは、この感染症の
情報を、絶え間なく大量に
発信。メディアは、商業主
義の下発信し、ネットでは、
フェイク情報がアップされ
拡散する。虚実入り乱れ不
安は増すばかりだ。

メディアは、盛んに『正
しく怖がれ』と喧伝する。
それは、食料を備蓄する事?
ひたすら家に留まる事?
??...

部屋を整理していたら、
市民講座のチラシが出てき
た。題名に『知識を身につ
け智慧を育む』とあった。
智慧の『慧』は『物事の道
理を正しく見抜く力』を意
味する仏教の教えらしい。
言わんとする所は多分、情
報を整理、俯瞰して「自ら
の頭で行動指針を立てよ!」
という事なのだろう。冷
静になる事。ウイルスへの
対処法を正しく実行する事。
緊急の医療行政に協力する
事に尽きると思う。

親睦を深める

婦人会新年会

笠懸町婦人会の新年会が1月25日(土)に大間々ゴルフ場で盛大に開催されました。来賓に市長や教育長らが招待され、和やかな食事会となりました。

市長は挨拶の中で、ボランティア活動などで頑張っている婦人会の皆さんに激励の言葉をかけていました。

「公民館だより」編集協力員紹介

- ◆ 仁：笠懸公民館だより第1号から携わっている。育成会の役もあり大忙しのなか活動。
- ◆ 余：城、山、鉄道など、行ってみたくなる投稿も執筆。
- ◆ 石：仕事をしながらの協力員なので、長期間の展示会等の取材が多い。
- ◆ 長：学生の時に作文を誉められ、文才発揮。家族の話題等のせた家族新聞を作るほどの書くことが

食事の合間には、星野マサ江さんと高倉旗枝さんの踊りが披露されました。優雅で美しい日本舞踊は、しみじみと心に沁みて、大きな拍手がわいていました。また、会員によるカラオケでもデュエットなどで大いに盛り上がっていました。お昼のひととき美味しい食事に舌鼓を打ちながら、親睦もよりいっそう深まった新年会になりました。

- 好きという頼もしい存在。
- ◆ 高：色々な役をこなしながら、フットワークの良いや若手のホープ。書道&和服好き女子。代表としてみんなのまとめ役。
- ◆ 森：夜の会議には参加できないので、昼間の取材専門。
- ◆ 上：元新聞社出身。色々な役を掛け持ちしているので忙しい中取材。
- ◆ 下：へえ〜と思うような雑学の「コラム豆電球」担当
- ◆ 美：サークル紹介担当。呼ばればどこへでも！

投稿

桜巡り

旅人

3月29日(日)と穏やかな陽差しの4月4日(土)両日、桜巡りをしてきました。

3月29日(日)は朝から雪が降り、「桜隠し」という幻想的な風景が見られ、鹿の川沼、阿左美沼、344号線の相生の桜トンネルを通り、桐生市民球場横の見事な桜トンネルを通り、122号線沿いの桜と列車のコラボレーションの素晴らしい風景を見ながら、ながめ(大間々町)、鹿田山を巡りました。

4月4日(土)は、少し足を延ばし神戸駅へ。丁度列車がホームへ入り、花と列車



▲ 満開の桜で記念撮影

のコラボレーションが見られました。途中、落差20mの不動滝のマイナスイオンを浴び、次に黒保根運動公園、小夜戸大畑地区花桃、小平の里、親水公園と小平の里付近の菅原神社で御朱印をいただき、偶然にも社

日本一しょうゆを訪ねて

旅人

桜が咲き始めた3月29日(日)、大間々にある「日本一しょうゆ・株式会社岡直三郎商店」に行ってきました。ここの創業は一七八七(天明7)年に近江商人初

代岡忠兵衛が、足尾銅山から江戸へ銅を運ぶ街道の要衝として栄えた、上州大間々の地に「河内屋」の屋号を掲げ、醤油醸造業を営んだのが始まりといえます。

今でも変わらぬ醤油作り木桶仕込みの天然醸造や素材にもこだわり、国産有機丸大豆・小麦を使用しています。木桶は江戸時代から受け継がれ、二百有余年もの歴史があります。

木桶が奏でる音色が聞こ

の中を見せていただきました。中には立派な彫刻が施された神殿があり、県の文化財の調査も入っている貴重なものでした。

みどり市の桜の見所は沢山あります。未来へ残したい風景ですね。

え、四世紀にまたがる味と香りはここだけでしか味わえません。

近年は木桶樽での醸造はほとんどなく、大豆モイロ等からの輸入品で作られた物が多くを占めているそうです。



▲ しょうゆの木樽が並ぶ蔵

今月の一首(11) 風鈴

玉梓の 道の神たち

賄はせむ 我が思ふ君を

なつかしみせよ

(17・四〇〇九 大伴池主)

【訳】 都へ向かう(玉梓の)

道の神達に幣を捧げよう。
私が思う君をお守りください。

近くを散策

「浅海八幡宮」

阿左美沼の近くの小高い丘にある「浅海八幡宮」。ゆるい坂を登って行くと両脇に大きな神で囲まれた社がありました。坂や境内には椿や梅、桜の花がきれいにつつましく咲いています。おみくじや御朱印、お札もあり、代金は賽銭箱にこのこと。

御祭神は応神天皇と神功皇后、御神徳は勝守の神と安産・子育ての神。

1169年ごろ新田義重が八幡宮を勧請し奥の宮と称し神田を寄進、京都市清水の八幡宮より分霊を祭ると云う由来あり。

昭和28年8月社殿改築月々

【解説】この歌は、天平十九(七七四七)年五月二日、

家持が「正税帳使」(国の政務報告書を都に持参する使)として上京する折に、同族の大伴池主が贈った歌です。「私が思ふ君」とは上司である家持のこと。

『万葉集一日一首』

の1日・15日は参拝者多くありと。



▲ 浅海八幡宮

「生品神社」

二区の「生品神社」は本殿の他に境内に「子育て子稻荷神社」と「番影山神社」の小さな社と大きないちよの木があります。

参道には、地域の人々が奉納した朱色の祈願旗が連なっていました。年末にはじめ縄教室、初詣にはおみくじや甘酒がふるまわれるそうです。

不定期で発行されている

花井しおり編

(致知出版社刊)より

【感想】この歌を最初に読んだ時に女性を守る歌かなあと思いました。実は上司に宛てた歌でした。男女に関係なくこのような表現ができるのは素敵だなあと感じました。

「生品神社だより」によると、元禄7年の神社本殿の棟札には「生品神社大明神・諸人の快楽所」とあり、祭事現場であるとともに、地域の人々の交流の場を意味しているとのこと。以前は神楽殿もあり、芸能や漫才、夜店もあり余興の場であったそうです。

今、敷地内は、檜の大木もきれいに伐採され、遊具やアスレチックもあり、子どもたちの遊び場にもなっています。



▲ 生品神社

四季の会 三月句会



いとほしき八十路の母よ夕桜
 山菜の天ぷらあてにまづ一献
 とつげんの夫の入院さくらさく
 仏壇を居間に移動する彼岸入
 彼岸入りらと連れ立つ母の墓
 菩提寺へ手土産もつや露の臺
 風唸る窓越しに見る春の月
 鳥帰る阿左美の沼の静寂かな
 野地蔵にかあるく会積つくし摘む
 婆の国よこめでまたぎ鳥帰る
 ウイルスの感染こはし桜寺
 免許返納ぎんりんで行く花見かな
 買物のつひでに妻と花見かな
 大刹の巨木の桜あをぎ見る
 春暖や二人で鳴らす神の鈴
 孫の背の吾をこへ行く土筆ん坊
 小雨降る花の散りはぎは美しく
 たんぼぼの花を十本娘が来たる
 ウイルスにロックバンドも春の月
 鉢桜かぞへるほどの花なれど
 骨董の雛あれこれと飾りをり
 孫を連れ寺町あるく涅槃西風
 仏壇にミモザ供へし母しのぶ
 竹の子を探せし猫と一回り
 たんぼぼの株だけ残す狭庭かな
 ごほふびの犬にもあがる雛あられ
 せりを摘みさつとひと茹で酒の友
 ハンガンのほとりに咲きし夜の桜
 再会の句碑は目標ひなまつり
 リハビリの夫を乗せ行く沼桜
 掌を叩き鯉よぶ池や花筏
 髪洗ひ明日の手術を待ちて春
 若狭湾さくらの寺に詣でをり

小林 狐一
 山本 草秋
 佐藤 小春
 東宮 春水
 川岸 星漢
 津久井友禪
 富士山鬼翔
 多田冬薔薇
 小林 華笑
 韓 百日紅
 真下 山月
 糸井 梅光
 童 鳥海
 金井 光順
 冠 二郎
 前原 紫蘭
 糸井 初音
 須田 仙寿
 小此木和音
 横倉 雅
 吉田 和義
 椋沢 春蘭
 中谷 邦女
 糸井 梅光
 富田 和
 村田 紅蘭
 遠藤 勝龍
 新羅 光海
 金井 漢江
 村田 小町
 石原 青蓮
 宇野 勘大
 金 光月

投稿

テクテクお城歩き(13)

「松本城」 歩遊人

日本100名城のひとつ、松本城には天守、乾小天守、渡櫓、辰巳櫓、月見櫓、等々が国宝に指定されています。そして、黒い下見板と白壁が美しく調和され、見るものを飽きさせません。松本城は1504年、小笠原一族の島立貞永が築いた深志城を、1582年石川数正が松本城と改称し城下町づくりを始めたといわれています。頭がぶつかるような急な階



▲ 松本城



段を昇りつめれば天守で、ここから見える常念岳(2857m)の端正な姿に登高欲をかきたてられます。城郭の案内は沢山の書物で紹介されていますので、それらを参考にして登城することをお奨めします。時間が許すなら旧開智学校(令和元年に国宝に指定される)、なわて通り、中町通りの散策をお奨めしたい。

笠懸短歌サークル 三月例会より

雛箱に納むる慣ひの覚え書き飾る手進まず読みふける午後
病室に入り来る日差し春めきて妻の容態完治に向かふ
友がきて農政などをあげつらふ所詮どちらも茄子づくりにて
「想定外」 コロナウイルス迫る日日せめて我が庭花で彩る
焼き芋の季節になると思ひ出す芋屋連れきしランドセルの孫は
年古りし白梅視野を占めて咲きあはひの空と明るさ競ふ
母の夢今宵見たきと床に入る四十年目の命日なれば

上村 征子
上山 利夫
橋内 文夫
久保田茂子
近藤ふさ子
関口 定夫
平山 勇



コラム 豆電球

「なぜ電話でもしもこと呼びかけるの？」

電話をかけるときには必ず「もしもし」が出てくるが、これは日本固有の言葉。英語圏ではハローで、フランス語ではアロー。ともに「やあ」とか「こんにちは」という意味だ。こちらのほうがはるかに常識的な呼びかけ方に思える。日本だけ「もしもし」なのはなぜだろう。



もしもしの語源は「これから話します」という意味で「申します、申します」あるいは「申す、申す」と話しかけたのが「もしもし」に変わったという説がある。しかし、いつごろから「もしもし」に変わったのかはよくわかっていない。また、見知らぬ人に声をかけるときの「もしもし」からきているという説もある。では、なぜ最初にこのようなかけ声をかけたかという点、昔の電話は性能が悪く声が聞き取りにくかったためだといわれている。ちなみに電話が開通したばかりの明治中期には「申す、申す」ではなく、「オイオイ」と呼びかけ「ハイ、ヨウゴザンス」と応えていたようだ。当時電話を持てたのは財閥やお役人だけだったので、こんな偉そうな言い回しになったのかも。

ちよつと一息



「今年の冬は暖かいですわね」そんな会話が飛び交う1月下旬、奥会津に出かけた。只見線応援団が企画した「ボンネットバスで行く冬の奥会津」の旅に参加。コーヌは会津坂下、柳津、三島、金山町を巡り、只見線の会津川口駅から列車に乗り会津坂下へ戻るもの。車窓から見ると光景では、雪が少ないというのではなく、田畑に見当たらないのだ。乾いた景色の中会津川口駅に着いた。

地元の人と言葉を交わせば「今年は雪が少なくて困った、田植えの時水不足にならないかばいなのだ」と危惧していた。駅のショップで素敵な本に出会い買い求めた。金山町教育委員会が発行した「山のさざめき・川のとどろき」という写真集だ。自然と人との共生を示す写真が金銀をちりばめた様に映し出されている。金山町に散らばるひとつひとつの集落が豊かな表情を見せていた。この旅での大きな収穫だった。(余)